

■環	境：山地
■対	象：一般
■期	間：5月上旬～ 6月下旬

低山帯に残された貴重なブナの林が残る月山は、標高300mほどの小高い山である。全域が鳥獣保護区、自然環境保全地域に指定され、73種の野鳥が観察された記録がある。

〈早春から初冬にかけて見られる鳥〉

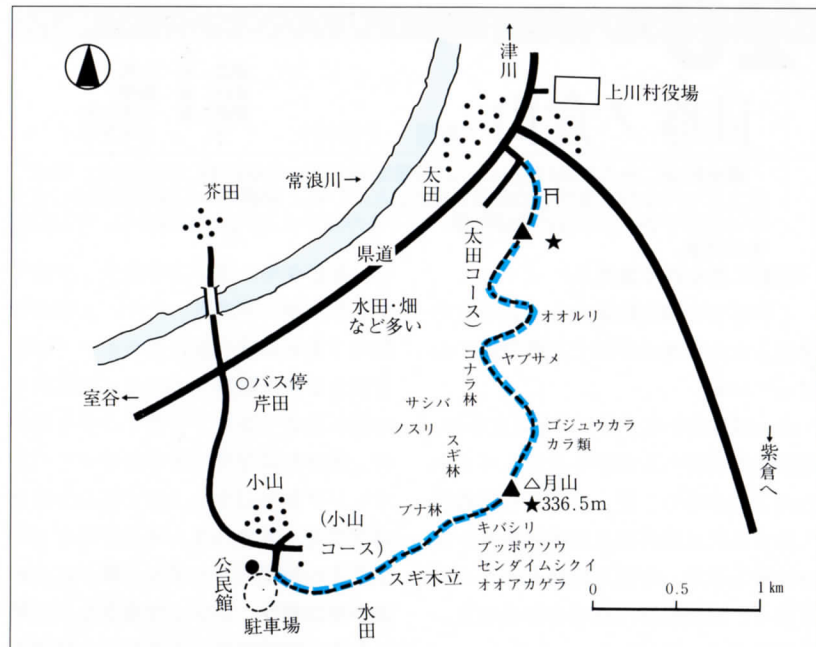
月山の春を真っ先に告げてくれるのがブナの新緑であり、黄緑色に染まった山容は遠方からでもよく目立つ。カラ類(コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ)がさえずり、樹間を盛んに飛び交うのも観察できる。ゴジュウカラの春の歌声がブナ林にこだますると、オオアカゲラが呼応するかのようドラミングを響かせる。春がすみで遠景がぼんやりとしている中、濃い紅色のオオヤマザクラの花が鮮やかだ。林床ではカタクリ、キクザキイチリンソウ、エゾエンゴサクなどが春を待ちかねたように一斉に咲き競っている。5

月の連休ごろになるとブナの開葉はさらに進み、みずみずしさいっぱいの中でオオルリやキビタキ、センダイムシクイ、クロツグミなどが盛んにさえずる。5月の後半ごろともなると、全山一帯が若葉一色となり、さまざまな鳥たちのコーラスで躍動感いっぱいとなる。林の奥からアカショウビンやサンコウチョウの音が聞かれ、巣穴の周辺を飛ぶブッポウソウの姿も見ることができる。

6月に入ると、コガラやヒガラ、シジュウカラなどが幼鳥とともに枝葉に群れ、キバシリの家族群が観察できることもある。



ブナの茂る新緑の月山



7～8月はセミしぐれ。最初に出現するのはニイニゼミ(ブナ林の開葉とともにエゾハルゼミが少数出現し、5月上旬にその声を聞くことができる)、その後ヒグラシが出現し、夕暮れともなると次々鳴き交わすようになる。盛夏はアブラゼミとミンミンゼミが主役になってくる。やがて秋に入り、はじめのころはカラ類やキツツキ類が主として見られるが、晩秋になると、シメやカシラダカ、アトリ、ツグミなどが小群で飛来するようになり、木の実を採餌したり、林床にて餌を探すのが観察されるようになる。(渡部 通)

メモ

交通 JR磐越西線、津川駅から新交貸し切りバス(栃堀行き、室谷行き)に乗り。上川村役場前、または芹田で下車。上川村役場前からは徒歩1時間30分(太田コース) 芹田からは徒歩約1時間(小山コース) 上川村役場の駐車場を利用(太田コース) 小山集落に駐車場あり。2～3台(小山コース) トイレはなし。 東蒲自然同好会と新潟県で共催の探鳥会が例年5月に行われる。 問い合わせ先：渡部通 ☎02549-2-5045